

# 国際交流

## 世界に広がる 学術ネットワークと海外拠点

大学間協定は30カ国・地域60大学、部局間協定は13カ国・地域24学部等となりました。今後も協定校との学術交流及び学生交流を推進し、積極的な国際交流を進めていきます。

また、第3期中期目標・中期計画において、「秋田鉱山専門学校・秋田大学鉱山学部及び工学資源学部の資源学分野の蓄積を活かした国際資源学部を中心に、国内外の資源に関わる企業・政府機関等の多様な分野で活躍できる人材の養成を行い、我が国の資源・エネルギー戦略に寄与することを目指し、世界的な資源学教育研究拠点としての充実と、世界水準の教育基盤を確立させる。」ことを目標に、「アジア・環太平洋地域を中心とするグローバル教育・研究とハブ機能を充実させるとともに、アフリカ・中東地域における資源学拠点形成を推進するため、海外共同研究拠点等を令和3年度末までに累計5か所以上設置する」ことを計画しています。

この計画に基づき、2019年4月現在では5カ国7か所(モンゴル1か所、タイ2か所、インドネシア2か所、ボツワナ1か所、アラブ首長国連邦1か所)に海外拠点を設置しています。

2012年、初の海外事務所としてモンゴル科学技術大学内に「秋田大学モンゴル事務所」を開設しました。2016年に新モンゴル学園内に移設し、本学研究者の現地における調査研究や新モンゴル学園から本学へ進学を希望する留学生の教育支援、広報、研究者との交流拠点として利用しています。

2013年には、バンコク(タイ王国)のチュラロンコン大学内に「秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室」を設置し、翌2014年には、北都銀行バンコク連絡事務所内に「秋田大学バンコク事務所」を開設しました。共同研究室では、両大学の研究者による研究や現地調査の拠点として活用

### 〈秋田大学海外拠点一覧〉

令和元年5月1日現在

| 国        | 拠点名                  | 設置日        |
|----------|----------------------|------------|
| モンゴル     | 秋田大学モンゴル事務所          | 2016年9月29日 |
| タイ       | 秋田大学・チュラロンコン大学共同研究室  | 2013年4月25日 |
|          | 秋田大学バンコク事務所          | 2014年10月1日 |
| インドネシア   | 国際資源学部・トリサクティ大学共同研究室 | 2015年4月28日 |
|          | 秋田大学・パジャジャラン大学共同研究室  | 2019年4月1日  |
| ボツワナ     | 秋田大学ボツワナ事務所          | 2017年6月28日 |
| アラブ首長国連邦 | 秋田大学・UAE大学共同研究室      | 2019年4月1日  |

し、バンコク事務所では、東南アジア地域における事務的拠点として、現地関係機関との連絡調整及び留学生獲得のための広報活動を行っています。

2015年には、インドネシアのトリサクティ大学内に「国際資源学部・トリサクティ大学共同研究室」を設置しました。通常は権益の関係から入手が難しい石油資源データを国営石油会社プラタミナから試料提供を受け共同研究室において分析を行うなど、国際資源学部によるアジアの地下資源をテーマにした共同研究、地域の探査・開発を行っています。

2017年には、ボツワナ国際科学技術大学内に「秋田大学ボツワナ事務所」を開設し、南部アフリカ地域での調査研究・教育活動を行うほか、国際資源学部3年次必修科目「海外資源フィールドワーク」の南部アフリカ地域の拠点として活用しています。

2019年4月には、UAEのUAE大学内に「秋田大学・UAE大学共同研究室」とインドネシアのパジャジャラン大学内に「秋田大学・パジャジャラン大学共同研究室」を設置しました。「秋田大学・UAE大学共同研究室」では、資源学分野を中心とした教育研究活動や地中熱利用技術を中心とした共同研究を実施するなど、中東地域における拠点として活用します。また、「秋田大学・パジャジャラン大学共同研究室」でも資源学分野を中心とした共同研究や本学の研究者・学生による現地フィールド調査の拠点として活用するほか、本学初のダブルディグリープログラム(国際資源学研究科とパジャジャラン大学)の運営拠点としても活用します。



アラブ首長国連邦大学での調印の様子

## 資源開発の研究拠点から 留学生広報まで

国際社会の持続可能な資源開発と資源確保に資する教育研究拠点創設を目的として2009年に設置された国際資

源学教育研究センター(ICREMER)では、資源保有国に対する出張講義・技術指導等の教育支援のほか、資源保有国協定校の大学院生を対象に行う短期研修「ショートステイプログラム」の開催、資源学に関する国際シンポジウムの開催、海外協定校との共同研究の推進、共同研究者の本学への短期招へい等、様々な活動を行っています。

特に、ショートステイプログラムについては、プログラムを終えて帰国した学生が正規留学生や交換留学生として再び本学に戻ってくるケースが増えてきており、本学の海外広報としての役割も期待されています。

秋田大学は世界に開かれた大学として国際交流の拡大を図っています。そのために、学生及び教職員の海外留学・派遣の促進と外国人留学生の受け入れの増加、受け入れ環境の整備等に努めています。2008年には国際交流センターを設置し、戦略的な国際交流を推進してきたところですが、2019年に教養基礎教育、専門教育及び国際交流の改善・充実を図ることを目的として、国際交流センターと教育推進総合センターを統合し、「高等教育グローバルセンター」を設置しました。

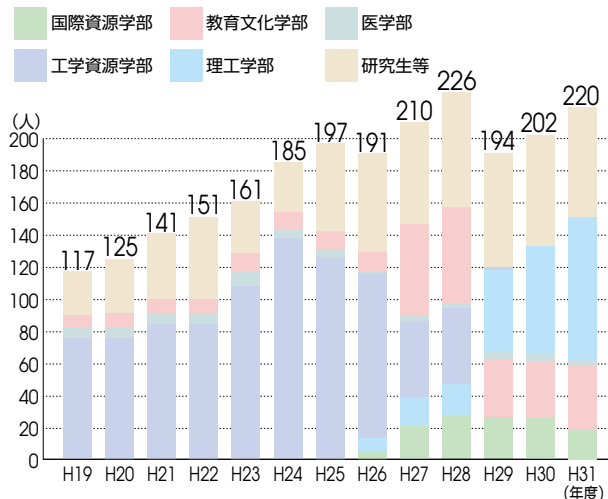
## 外国人留学生に対する教育・生活支援の充実

留学生数の増加に伴い、教育支援体制の整備も積極的に行っています。秋田の文化に対する理解を深めるため、農家民泊、もちつき、スキーツアーなど、地域に根ざしたイベントを企画し実施しています。また、「チューター制度」を採用することにより、日本人学生が留学生の日本語学習や生活のサポートを行っています。また、平成22年4月には「多文化交流ラウンジ」が設置され、全学生、教職員が多言語を自律的に学べる場となっています。



スキー体験をする留学生

## 〈留学生数の推移〉



## 国際的視野を持った人材の育成

若手教育系職員を海外の大学等に派遣し、国際的な視野を持った人材の育成を目指すため、「秋田大学研究者海外派遣事業」を実施しています。制度化した平成20年度から今までに、毎年2～3名程度、計30名の研究者がこの制度を利用し、海外の大学で研究を行いました。

また、学生に対しては、協定校などの海外の大学へ留学する際の経済的支援のため、「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」や「秋田大学学生海外短期研修支援事業」を実施しています。これは往路に要する国際線の航空運賃の一部(アジア圏上限4万、それ以外上限10万)を支給するもので、平成30年度は「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」により7名、「秋田大学学生海外短期研修支援事業」により8名に対して支援を行いました。



海外留学説明会